

研究開発戦略を推進する 研究開発費・製品開発費の配賦の考え方・進め方

～研究開発の業務プロセスを踏まえた原価の把握と市場に対応した原価の企画と管理～

■ 日 時 ■ 2017 年 4 月 18 日 火曜日 13:00 ～ 17:00

■ 会 場 ■ 東京・麹町 企業研究会 セミナールーム

■ 講 師 ■ コーポレート・インテリジェンス株式会社 代表取締役社長 武富 為嗣 氏

《講師プロフィール》

大手エンジニアリング会社、アーサー・D・リトル、AT カーニー、SAP などを経て、現在の会社設立。経営戦略、研究開発、M&A、サプライチェーンや IT のマネジメントのコンサルティングなど、20 数年の経験を有する。日本工業大学大学院技術経営研究科教授(プロジェクトマネジメント)を兼任。日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)理事。マサチューセッツ工科大学スローンスクール MBA、東京工業大学工学修士、早稲田大学理工学部卒

■ 本セミナーの特徴 ■ 以下の方針・目的で本セミナーを進めます。

市場と生産の重心がアジアを中心とする途上国に移行し、モバイル端末の出現、テレビの凋落にみるように競争環境が目まぐるしく変わる中、今更ながら、研究開発の重要性が再認識されております。従来の研究開発を強化するだけでなく、新興国が簡単に追いつけないようなイノベーションを興す製品開発の仕組みを作り、戦略的、効率的に研究開発を推進し、革新的な新製品を市場に投入して、グローバル競争の勝者になることが求められています。

ところが、現実の研究開発を見ると研究開発費が、税務会計上、費用として計上されるため、年度毎の予算と実績の管理が慣行となってしまう、下手をすると新製品を市場に出すことより、研究することが目的となってしまう。研究開発を投資として認識し、スピード感を持って取捨選択を行い戦略的に運営するには、まずは、研究開発費を投資として認識把握し、投資対効果を各々のテーマ毎に把握評価し、更に市場を見据えた戦略的なくくりで、テーマをグループ化して、管理者や研究者のマインドを変え、運営の方法を変えていく必要があります。

ここでは、このような研究開発費用把握に関する課題を見据えた上で、原価管理の教科書にはない、実践に即した研究開発戦略と連携した製品開発の原価企画と研究開発の原価管理を習得することを目的とします。

■ ご参加を頂きたい皆様 ■

経営企画・経理・原価企画・原価管理・研究開発企画・事業部門の製品開発企画などにご在籍され：

- ・ 研究開発戦略立案に携わる皆様
- ・ 研究と開発の連携や開発の効率的な運用を進めたい皆様
- ・ 途上国市場での競争・勝ち残り戦略を原価企画・管理の視点から考察されたい皆様 など

● 参加要領 ●

● 受講料 ● 1 名 (税込み、資料代含む)

正会員	32,400 円	本体価格 30,000 円
一 般	35,640 円	本体価格 33,000 円

● 申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてに FAX いただくか、当会ホームページからお申し込みください。後日 (開催日 1 週間～10 日前までに) 受講票・請求書をお送り致します。

● 申込書を FAX にてご送信いただく際は、FAX 番号をお間違えないようご注意ください。

● 会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより [TOP] → [公開セミナー] → [よくあるご質問] をご参照下さい。

● 最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。ご了承ください。

一般社団法人 企業研究会

担当：早瀬 E-mail: hayakan@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

麹町 M-SQUARE 2F

TEL 03-5215-3512 FAX: 03-5215-0951

171226-1001※		17・4・18		研究開発費・製品開発費の配賦の考え方・進め方	
会社名					
住 所		〒 ー			
TEL		FAX			
部課 役職		フリガナ			
		お名前			
e-mail					

※お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

13:00

1. 日本企業の研究開発が直面している課題と解決の方向性

- ・ イノベーションと途上国向けの製品開発の加速化

2. 収益管理の仕組みと研究開発の位置付け

- ・ プロフィットセンターとコストセンター
- ・ 研究開発費はコストか？

休憩

3. 戦略的な原価の把握

- ・ 事業のくくりと戦略に連携した原価の把握

4. 研究開発の業務プロセスと原価の連携

- ・ 研究開発の業務プロセスと費用配分
- ・ 研究開発業務プロセスの設計
- ・ 製品コンセプトの明確化
- ・ 事業性評価と費用の配賦

休憩

5. 研究開発戦略と業務プロセスに連携した

研究開発費の配賦の考え方・進め方

- ・ フェーズに区切った研究開発費や製品開発費の配賦
- ・ 技術主導のハイリスク型研究開発の業務プロセス
- ・ 市場差別化・改善型のローリスク型研究開発の業務プロセス
- ・ 研究開発費の配賦の課題と活動基準原価（ABC）による原価の配賦
- ・ 標準原価と実際原価、原価差異

休憩

6. 製品開発組織とグローバル開発戦略に連携した

原価企画・原価管理の考え方・進め方

- ・ グローバル研究開発に対応するプロジェクト制とマトリクス組織
- ・ グローバル開発の費用の配賦、移転価格
- ・ 途上国市場向けの原価企画と原価の配賦

7. 戦略と連携した研究開発の事業性評価への適用

- ・ 不確実性の把握
- ・ 原価と連動した収益性の把握
- ・ 研究開発の原価管理の業務の進め方の組織レベル

17:00

《質疑応答・ディスカッション》